

たのしい たのしい 船穂校♪

倉敷市立船穂小学校

横山文朗

二条城のげた箱で

先週の修学旅行は、天候にも恵まれ楽しかった。そして、学びのあるものになった。

最初の見学地は二条城だった。混雑していないかなと心配していたが拍子抜けするほど空いてうれしい驚きだった。担任の頃、駐車場に入れなくてお城の周りをバスが二周もして待ったことや、降りしきる雨の中、げた箱が空くまで庭の見学をしたことなどがうそのようだった。時代が変わり見学先が分散されているのかなと思った。

受付に行くと、ろ組はすでにげた箱にくつを入れ並んで座っていた。い組の子どもたちは立ったまま受付の人の説明を聞いた。「この二条城の廊下はうぐいす張りの廊下です。静かに歩くとキュキュと音がします。これをドンドン飛び跳ねる人がいます。国宝ですから大切にしてください。」ときつい口調で言われた。修学旅行に来てそんな見学態度ではいかんと思ったし、口調からそんな様子が結構多いのだろうとも思った。

説明が終わり、い組の子どもたちとげた箱にくつを入れて並んだ時、受付の人が、「わあ〜」と声を上げた。「みんなきちんとくつが入れられるんですね。感心しました。」そして、わたしに、「校長先生、いい学校ですね！」と言われた。二条城には、毎日多くの修学旅行団が訪れる。年間では何百校、いやそれを上回る数の学校が見学するだろう。その受付の人が感心して驚きの声をあげた。担任の先生も、他の引率者も何も言っていない中、子どもたちが自然に、そして当然のように整然とくつ箱に入れたのだから、言われてみるとすごいことだ。

船穂小学校のくつ箱はいつもきちんと整っている。日ごろから担任の先生がくつ箱の様子を確認していて指導を続けているからだろう。入学してからずっと続けて指導してきたから、子どもたちの行動様式として身につけているのだろう。このような指導は、学校だけではなく実を結ばない。家庭でも学校と同じような指導が行われているのだろう。受付の人が、「校長先生、いい学校ですね！」と言われたのは、履き物のそろえ方に、子どもたちの生活の様子のすべてが反映されていると思われたからだろう。

ほんの二言三言のやりとりだったけれども、子どもたちを先生方をそして地域を誇らしく感じ、心が熱くなるほどうれしかった。すばらしい学校に勤務していることをありがたと思った。最初の見学地でこのような思いを持ったこともあって、子どもたちのよさがバスの中でも、宿舎でも見てとれ、忘れ難い修学旅行になった。

